

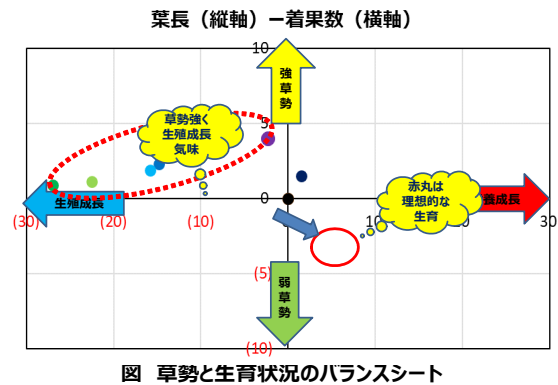
1 目的

令和3年度は情報統合基盤に取り組み，研究会活動を通じ技術習得や継続した実証活動を行い，厳寒期収量の向上も含め生産性向上を目指し，得られた成果を地域へ広く普及し，今後の生産振興に資することとする。

2 実施状況

(1) 情報統合基盤の取組

生産者が着果数や葉長データをスマートフォンでアップし草勢と生育状況のバランスシートが作成される。作成されたバランスシートから草勢の強弱は葉長の大きさで，生育のバランスは着果数で判断し理想的な生育の中心を目指すために，2週間毎にハウス内環境の改善策を提案した。適期収穫や病害虫対策についても併せて指導した。



草勢が強く生殖成長場合→平均気温上げ，昼夜温度差を小さく

図1 バランスシートに基づく栽培管理

(2) 現地検討会の実施

農業開発総合センターの野菜専門技術員を招き，情報統合基盤の活用について学んだ。温度管理，炭酸ガス濃度，飽差等のハウス内環境のデータの情報の共有化が図られ，効果的な炭酸ガス施用，バランスシートに基づく温度管理等について理解を深め，環境制御技術の向上に繋がった。また，3名の生産者が厳寒期(12から2月)の単収向上6.5トン/10aを達成できた。



写真1 現地検討会

(3) 今後の課題，取組

- ① 情報統合基盤を活用した栽培技術の見える化，共有化。
- ② 情報統合基盤を活用した高単収農家の栽培管理の分析。
- ③ 更なる環境制御栽培下での灌水，施肥改善及び病害虫対策。



写真2 生育状況の入力